
老人性健忘症

山中幸盛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

老人性健忘症

【Nコード】

N6890U

【作者名】

山中幸盛

【あらすじ】

認知症という用語は気に入らないので、このタイトルにしました。(いつもの半分の長さです。)* (お断り) このショートショートは、山中幸盛のブログ「妻は宇宙人」に掲載されているものと同一のものです。

山中幸盛の孫の一人が、日本人として二人目の国連事務総長に選出された。

その最大の理由は、彼がハーバード大学在学中に書いた論文『国連主導で進めるサハラ砂漠緑地化による世界食糧危機からの脱却プログラム』が世界十六言語で出版され、多くの支持を得たことだといわれている。幸盛の血を引いているにもかかわらず彼は生まれながらの天才だった。

幸盛が昼食後にウトウトまどろんでいると、看護師がやってきて耳元でささやいた。

「山中さん、山中さん、先月お見舞いに来られたお孫さんが正式に国連事務総長になられたみたいよ」

「はあー？」

「いまテレビのライブチャンネルに出てるわ。見る？」

「補聴器はどこだ？」

「座った方がよく見えるわね」

看護師は幸盛の上半身を起こし、枕を腰にあてがった。

「いてて、また避難訓練か？」

「点滴を持ってくるわね、ほら眼鏡」

看護師は幸盛の両手に眼鏡とテレビのリモコンを握らせて部屋を出て行った。

「いったい何を見るというんだ？」

幸盛は眼鏡をかけてテレビを見た。どこかで見た顔が記者会見をしているようなので、補聴器を耳にセットした。日本人記者の一人がその男に質問した。

「十年前に出された本のあとがきに、国連の仕事をするようになってのは、お祖父さまの影響だと書かれていますか？」

「私が七歳の時に、ユネスコ憲章前文の『戦争は人の心の中で生れ

るものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない』との一節を教えてくれたのが祖父でした」

日本人記者が大げさに目を見開いて確認する。

「七歳の時にですか？」

「はい。その頃の私は、高校入試の問題集を解いて遊んでいましたから」

その時看護師が点滴パックをかかえて戻ってきた。

「山中さん、よかったわね」

幸盛は看護師にたずねた。

「私にそっくりな、あのクソ生意気な若造はいつたい何者なんだ？」

* 文芸同人誌「北斗」 第574号（平成23年1・2月合併号）
に掲載

* 「妻は宇宙人」/ウェブリブログ <http://12393>

912.at.webry.info/

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6890u/>

老人性健忘症

2011年10月9日08時10分発行